



クローズアップ薬用植物(その4): オケラ、オオバナオケラ、ホソバオケラ

学名: *Atractylodes japonica*
和名: オケラ(朮)
園内植栽場所: 2号園

日本に自生するキク科オケラ属の多年草で、草丈は50cmほど。花は淡紫色。筒状花を房状の頭状花序で咲かせ、頭花の形は鐘状です。葉は互生し、やや硬く、縁には鋭い鋸歯があります。また、茎の下側では奇数羽状複葉になっています。総苞を取り巻く苞葉が、魚の骨のような形をしているのが特徴的です。



オケラ <2号園, 2013.09.09 撮影>

「山で旨いはオケラにトキ」ともいわれ、若芽は山菜としても食されます。また、京都の八坂神社で元旦に執り行われる「白朮祭(おけらさい)」は有名ですが、「おけら参り(=をけら詣り)」として参詣者が持ち帰る火の火種にはオケラの根茎が混ぜられています。

なお、下に紹介するホソバオケラは、江戸中期に渡来した際に新潟県の佐渡で盛んに栽培されたため、別名の「佐渡オケラ」として広く知られています。

学名: *Atractylodes ovata*
和名: オオバナオケラ(大花朮)
園内植栽場所: 14号園



オオバナオケラ <14号園, 2013.09.26 撮影>

オケラの近縁種で中国原産。日本での自生はなく、草丈は30cmほど。名前の通り大きな花をつけ、オケラよりも濃い紅紫色で、頭花は壺状です。葉は鋸歯状緑で、倒卵形です。

学名: *Atractylodes lancea*
和名: ホソバオケラ(細葉朮)
園内植栽場所: 4号園



ホソバオケラ <4号園, 2013.10.10 撮影>

オオバナオケラと同様に中国原産で、草丈は30~50cmほど。花は白色で、頭花はオケラより細身。葉も名前の通り細長く、鋸歯状緑で、披針形です。

では、上記三種の花を、もう少しクローズアップした写真で比較してみましょう。



オケラ <2号園, 2013.09.13 撮影> オオバナオケラ <14号園, 2013.09.26 撮影> ホソバオケラ <4号園, 2013.10.07 撮影>

いかがでしょうか。オケラと比較してオオバナオケラの重量感、ホソバオケラのスリム感を少しは感じてもらえるでしょうか。

ただ実際には、それぞれの花期は少しずつずれており、当園では毎年、オケラ、オオバナオケラ、ホソバオケラの順に花を咲かせるため、開花している三種の花を同時に比較観察することは適いません。

三種とも直接触れて観察しようとする、葉縁の鋭い鋸歯がチクチクと手に当たりますが、前述の頭状花序の構造や、魚の骨状の苞葉、頭花の外側から内側へ順に花を咲かせる咲き方など、じっくり観察すると大変ユニークで興味深い植物です。



また花の色にしても、ホソバオケラは終始白色ですが、オケラとオオバナオケラは、その咲き始めから終わりまで開花状況によって日々その濃淡を変えています。

なお、今期まで離れ離れだった三種のオケラですが、来期には2号園に肩を並べて集結する予定です。ぜひ皆さんの目で直接その姿を観察してください。

オケラ(頭花を真上から) <2013.09.18 撮影>

生薬の基原植物として

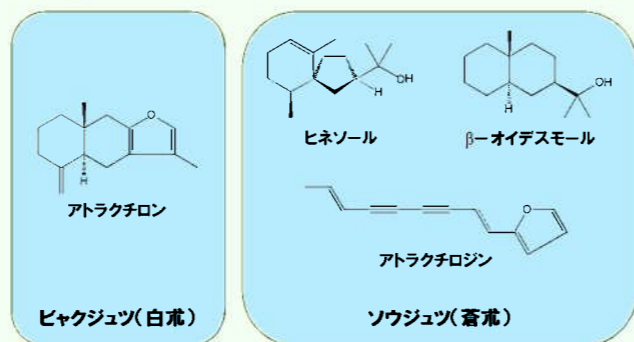
オケラ又はオオバナオケラの根茎は、生薬「ビャクジュツ(白朮)」として日本薬局方に記載されています。なお、ビャクジュツ(白朮)は、その基原植物で、オケラのもの「ワビャクジュツ(和白朮)」、オオバナオケラのもの「カラビャクジュツ(唐白朮)」と区別されます。

また一方、ホソバオケラの根茎は、生薬「ソウジュツ(蒼朮)」として日本薬局方に記載されています。

生薬「ビャクジュツ(白朮)」、「ソウジュツ(蒼朮)」について

◆ 化学成分 ◆

ビャクジュツ及びソウジュツには主要成分としてセスキテルペン系の精油が含まれ、さらにソウジュツにはポリアセチレン系の化合物が含まれ、それらの化学構造は以下の通りです。



なお、ビャクジュツとソウジュツは共によく似た生薬であるため、まれにビャクジュツ中にソウジュツの混入の恐れがあります。したがって、ビャクジュツの確認試験には、ビャクジュツ中の主要成分であるアトラクチロンの確認反応に加え、ソウジュツの特異成分であるポリアセチレン系のアトラクチロジンが検出されないということが規定されています。

◆ 用途 ◆

ビャクジュツとソウジュツは、共に水分代謝不全の改善を目的とした漢方処方、五苓散、苓桂甘湯、苓姜朮甘湯などに配合されています。

◆ 漢方処方 ◆

五苓散

朮(白朮または蒼朮)、茯苓、沢瀉、猪苓、桂皮の5種類の生薬からなる漢方処方。朮、茯苓、沢瀉、猪苓はいずれも利尿薬です。とくに、朮と茯苓の組合せで、胃の中で水がタプタプするような水分代謝不全状態、いわゆる漢方用語で「胃内停水」の状態を改善する働きを示します。また、沢瀉と猪苓は共に消炎性の利尿薬で最終的に尿として出させる効果があります。さらに、桂皮が配合されていることから水滞によるのぼせや頭痛にも効果があります。その他に、水分の偏在によって引き起こされる偏頭痛にも効果的です。

< 適応 >

のどが渇いて、尿量が少なく、吐気、嘔吐、腹痛、頭痛、むくみなどを伴う次の諸症: 水滲性下痢、急性胃腸炎、暑気あたり

苓桂朮甘湯

朮、茯苓、桂皮、甘草の4種の生薬からなり、五苓散から消炎性の利尿薬である沢瀉と猪苓をとり、甘草を加えた漢方処方。胃内停水による気の上衝を抑える効果があります。すなわち、朮と茯苓で水滲を取り除き、桂皮で気の上衝によるのぼせや頭痛を緩和しています。また、甘草は諸生薬の調和をはかっています。

< 適応 >

尿量が減少して、胃内停水がある人の不安神経症、めまい、動悸、頭痛

苓姜朮甘湯

朮、茯苓、乾姜、甘草の4種の生薬からなり、苓桂朮甘湯の桂皮を乾姜に置き換えた漢方処方。胃内の水滲が下部に偏在することで、胃より下の腰が冷えて痛む時に効果的です。朮と茯苓で水滲を取り除き、乾姜で内部から身体を温めることで冷えによる腰痛を緩和させます。甘草は諸生薬の調和をはかっています。

< 適応 >

腰部に冷感、痛みがあり、うすい尿が頻繁に出る人の腰痛、腰痛、夜尿症

8~9月に花を咲かせた薬用植物(一部抜粋)

学名: *Mentha arvensis* var. *piperascens*
和名: ニホンハッカ(日本薄荷)



<1号園, 2013.07.30 撮影>

ニホンハッカの地上部は、生薬「ハッカ(薄荷)」として、日本薬局方に記載されています。

学名: *Foeniculum vulgare*
和名: ウィキョウ(茴香)



<4号園, 2013.08.09 撮影>

ウィキョウの果実は、生薬「ウィキョウ(茴香)」として、日本薬局方に記載されています。

学名: *Geranium thunbergii*
和名: ゲンショウコ(現証獲)



<3号園, 2013.08.01 撮影>

ゲンショウコの地上部は、生薬「ゲンショウコ(現証獲)」として、日本薬局方に記載されています。

学名: *Cassia obtusifolia*
和名: エビスグサ(夷草、恵比寿草)



<7号園, 2013.08.22 撮影>

エビスグサの種子は、生薬「ケツメイシ(決明子)」として、日本薬局方に記載されています。

学名: *Perilla frutescens* var. *acuta*
和名: シソ(紫蘇)



<12号園, 2013.09.13 撮影>

シソの葉及び枝先は、生薬「ソヨウ(紫蘇葉、蘇葉)」として、日本薬局方に記載されています。

学名: *Pharbitis nil*
和名: アサガオ(朝顔)



<2号園, 2013.09.12 撮影>

アサガオの種子は、生薬「ケンゴシ(牽牛子)」として、日本薬局方に記載されています。

学名: *Schizonepeta tenuifolia*
和名: ケイガイ(荆芥)



<12号園, 2013.07.31 撮影>

ケイガイの花穂は、生薬「ケイガイ(荆芥穗)」として、日本薬局方に記載されています。

学名: *Bupleurum falcatum*
和名: ミシマサイコ(三島柴胡)



<7号園, 2013.08.22 撮影>

ミシマサイコの根は、生薬「サイコ(柴胡)」として、日本薬局方に記載されています。

学名: *Curcuma longa*
和名: ウコン(薑黄)



<13号園, 2013.09.25 撮影>

ウコンの根茎は、生薬「ウコン(薑黄)」として、日本薬局方に記載されています。

学名: *Aralia cordata*
和名: ウド(独活)



<17号園, 2013.09.13 撮影>

ウドの根茎は、生薬「ドクカツ、ドクカツ(独活)」として、日本薬局方に記載されています。

学名: *Lycium chinense*
和名: クコ(枸杞)



<52号園, 2013.09.12 撮影>

果実は、生薬「クコシ(枸杞子)」根皮は、生薬「ジコツピ(地骨皮)」として日本薬局方に記載されています。

学名: *Capsicum annuum*
和名: トウガラシ(唐辛子)



<1号園, 2013.09.13 撮影>

トウガラシの果実は、生薬「トウガラシ(番椒)」として、日本薬局方に記載されています。

編集後記

薬草園だより「10月号(第3刊)」は、いかがでしたでしょうか。

前号(第2刊)にて、写真と文字をそれぞれに大きくして見やすくしたつもりでしたが、何と、今号からA0サイズの二枚増しとの嬉しい要請が届きました。編集レイアウトは前号をそのままに、写真と文字をより大きく、より見やすく細めたつもりです。

薬学部の掲示スペースに、これだけの紙面ポスターを貼っていただけることは、光栄であるとともに、正直なところ結構なプレッシャーでもあります。プレッシャーを気概に変えて、創刊号からのコンセプト「附属施設である当園の魅力や少しでも多く薬学部の皆さんにお伝えする」を心掛けてまいります。皆様がお越しの際は、自然と当園まで足を運びたいかなるようになっていただけるよう思いを込めて。

では皆様のご来園を、種々の薬用植物と共にお待ちしております。



51号園の棚下には、現在、キウイフルーツ(学名: *Actinidia deliciosa*)が果実をたわむに実らせています。一般的には良く知られていませんが、その和名は「オニタタビ(鬼木天夢)」といえます。

薬学部からの来園者には、期間限定になりますが、「オニタタビ!」を秘密の合言葉に、キウイ狩り(2個/1人)をご提供いたします。

本紙に対するご意見・ご感想、記載内容の誤り等のご指摘がございましたら、お手数ですが下記連絡先までお願いします。

有瀬キャンパス内
薬用植物園 美甘康仁(内線: 2719)
E-mail: mikamo@pharm.kobegakuin.ac.jp

